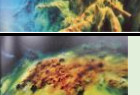
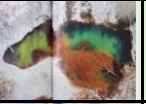


1	A-1		小	磐梯山(ばんだいさん)。かつて中央のくぼみに小磐梯があったが、水蒸気爆発で消滅した。荒々しくも凜としたその姿に見とれ頬を射る寒さも忘れた。2019年2月
2	A-2		小	銅沼(あかぬま)。磐梯山の中腹にあり五色沼の水源とも言われている(2020年11月)
3	A-3		小	毘沙門沼(びしゃもんぬま)。季節や天候、時間帯により様々な色合いを見せる。遊覧ボートが行き交うすぐ底には、摩訶不思議な水中風景が広がっている。2024年2月
4	A-4		小	赤沼(あかぬま)。翡翠色の美しさで魅了する。硫酸イオン、鉄イオンを多量に含み、沼を縁取る植物が赤錆色に染まる。これが沼の名の由来だ。2021年5月
5	A-5		小	深泥沼(みどろぬま)。一つの沼が三色の彩りをりを見せる。地下から湧水などの影響を受けているためそれぞれ水質が異なるのだ。2024年2月
6	A-6		小	竜沼(たつぬま)。深い緑に囲まれ探勝路からは見づらくうっかり見過ごす人も多い。2021年5月
7	A-7		小	弁天沼(べんてんぬま)。五色沼で二番目に大きな沼。展望台からの眺めも素晴らしく、雄大なスケール感と美しさに見とれるばかり。2022年10月
8	A-8		中	青沼(あおぬま)。何度も訪れているが、この日はこれ以上に水は澄み、蘚類(せんるい・ウカミカマゴケ)のマットが手に取るように鮮明に見えた。2022年5月
9	A-9		小	瑠璃沼(るりぬま)。新緑が水面に映え彼方に磐梯山を望む景勝地。2013年5月
10	A-10		小	柳沼(やなぎぬま)。朝霧が徐々に消え、うっすらと秋の気配が浮かび上がる。2020年10月
11	A-11		小	弥六沼(やろくぬま)。四季折々の彩りを楽しめる。2020年10月
12	A-12		小	もうせん沼。水面に浮かぶ蘚類の仲間が、他の沼とは一線を画す景観を見せている。2020年9月
13	B-1		中	銅沼。磐梯山の水蒸気爆発から137年。原初的な風景を今も留める。2020年11月
14	B-2		小	赤沼。同じ沼でも場所により景観の違いを見せる。水面を霧のように覆うのは何なのか？アシスタントの姿が見え隠れしていた。1988年10月
15	B-3		小	ヨシの茎に藻が絡みつき、それらが鉄分の粒子に彩られている。赤沼にて。1988年7月
16	B-4		中	赤沼の底付近で魅力的な景観を見つけた。酸化鉄を帯びた土の上にヴェールのように藻がふわりと漂う。1988年10月
17	B-5		大	赤沼。有限な世界に出会った。水は澄みわたり彼方まで見渡せた。赤沼はダイナミックで変化に富み悠久の時の流れを体感できた。1988年10月
18	B-6		小	雪が降る2週間前の瑠璃沼。マット状に広がる蘚類の緑と瑠璃色のコントラストがとても美しい。2024年11月
19	B-7		小	上空から見た瑠璃沼。上部の湖底からケイ酸アルミニウムの微粒子が噴出しているのが、確認できる。2024年11月
20	B-8		中・縦	畝のように続く瑠璃沼の蘚類。その合間から湧き上がる火山性の物質。1988年7月
21	B-9		小	雲海のごとく漂っているケイ酸アルミニウム。その中に潜降する。視界はゼロで無味無臭だった。瑠璃沼にて。2016年4月
22	B-10		中	五色沼に最初に潜ったのが瑠璃沼だった。心揺さぶる景観に驚愕しつつ撮った1枚目の作品。時が止まったような静寂さだった。1988年7月
23	B-11		小	瑠璃沼の水中から湖面を見上げる。西日が樹木の合間に吸い込まれ色彩が失われていく。1992年10月

24	B-12		中・縦	水草のフトヒルムシロの蜘蛛の巣状に藻類の一種がまとわりついている。これまで見たこともない水中アート。毘沙門沼にて。1988年7月
25	B-13		小	突如現れた純白の鯉に意表をつかれた。光芒に浮かぶ姿が神々しい。毘沙門にて。1992年8月
26	B-14		中	木陰から降り注ぐ陽光が柔らかく竜沼を包み込む。森を伝う風や、水面を吹き抜ける風により光芒が左右にゆらめく。2016年7月
27	C-1		中	柳沼(やなぎぬま)は紅葉も美しい。水中から眺めるのも趣がある。2016年7月
28	C-2		中	深泥沼。一つの沼が三色の彩りを見せる。地下から湧水などの影響を受けているためそれぞれ水質が異なるのだ。2024年2月
29	C-3		大	深泥沼の青の水域は水がとても澄んでいる。水草のオヒルムシロも広く分布し、その合間を時折小魚が通り過ぎる。1988年7月
30	C-4		中	深泥沼の青い水域に近づくとケイ酸アルミニウムに視界を遮られる。だが水面に漂う真水は混じることなく、奥深く深遠な世界を作り上げていた。2016年6月
31	C-5		中	鉄分が酸化しその粒子がフトヒルムシロに降り積もっている。酸化鉄が沼を赤く染めたのだ。わずかに顔をのぞかせる青い水域が招くように口を広げる。深泥沼にて。2016年6月
32	C-6		小・縦	消えた沼で見かけた水草イヌタヌキモ。1988年10月
33	D-1		小	桧原湖(ひばらこ)に浮かぶ月島。モヤで霞んでいたが一瞬光芒が差した。2020年6月
34	D-2		小	探勝路から眺めは格別だ。毘沙門沼の色彩とツツジ科の色合いにはため息が出るばかり。2020年11月
35	D-3		中	裏磐梯最大の湖である桧原湖。秋元湖、小野川湖と並び裏磐梯三湖にあげられる。とくに早朝の景観は息をのむほどに美しい。2020年10月
36	D-4		小	柳沼の枝から落下した雪が薄氷の湖面に幾何学模様を描く。2024年2月
37	D-5		小	小野川湖から望む西吾妻山に初冠雪が見られた。2020年10月
38	D-6		中	厳冬期に見られるイエローフォール。磐梯山北側の崩壊壁から染み出した硫酸イオン。酸化鉄などが凍ってできる自然現象。雪で覆われていることが多く幻の氷瀑とも言われている。2023年2月
39	D-7		小・縦	オニグルミの冬芽と葉痕。これまで気づきもせず通り過ぎたことを公開する。2019年2月
40	D-8		小・縦	ニワトコの冬芽と葉痕。なんて愛らしい表情を見せる葉痕だろう。頭上には新たな芽が伸びている。春はもうすぐそこだよと教えてくれる。2019年2月
41	D-10		小	鉄分など火山性鉱物とヨシが見せる春の旋律。音を奏でているように感じた。深泥沼にて。2021年5月
42	D-9		中	中瀬沼の春の芽吹きは緑、黄、橙色と実に様々。ダケカンバ、オオヤマザクラなど森は色鮮やかに染まる。まるで紅葉のように見えることから春もみじと呼ばれる。2022年5月
43	D-12		中	匂い立つ新緑の萌え。2021年5月
44	D-11		中	五色沼湖沼群には名もない沼がいくつもある。誰に見られることもなく美しい水をたたえひっそりと佇んでいる。2021年5月